



## 高知県から得られた四国初記録のハタ科魚類クロオビスズキ

橘 皆希<sup>1</sup>・遠藤広光<sup>1</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 高知大学理工学部海洋生物学研究室 (高知市)  
MT: miibai.harima@gmail.com (corresponding author)  
HE: endoh@kochi-u.ac.jp

Received 09 April 2025  
Revised 21 April 2025  
Accepted 22 April 2025  
Published 23 April 2025  
DOI 10.34583/ichthy.54.0\_64

Minaki Tachibana and Hiromitsu Endo. 2025. First record of the Ribbon Basslet *Liopropoma lemniscatum* (Epinephelidae: Liopropominae) from Kochi Prefecture, Shikoku, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 54: 64–68.

### Abstract

A single female specimen (132.4 mm standard length) of the Ribbon Basslet *Liopropoma lemniscatum* Randall and Taylor, 1988 (Epinephelidae: Liopropominae) was collected from an offshore reef, west of Okino-shima island, Sukumo City, Kochi Prefecture, Shikoku, Japan in April 2003. This species is distributed in the western Pacific Ocean, with records from Japan, southern Taiwan, the Philippines (Davao Gulf), and Indonesia [a specimen from Palau in Allen and Erdmann (2012: 307, 2024: 328) was the misidentification of *L. latifasciatum* (Tanaka, 1922)]. In Japanese waters, it has previously been known from the Izu Islands (Izu-oshima island), Sagami Bay, Suruga Bay, Wakayama Prefecture, the Osumi (Tanega-shima and Mage-shima islands), Tokara (Kogaja-jima island) and Amami islands (Amami-oshima island), and Okinawa Prefecture. Accordingly, the present specimen represents the first record of *L. lemniscatum* from Shikoku.

ハナスズキ属 *Liopropoma* Gill, 1861 は、ハタ科ハナスズキ亜科 (Epinephelidae: Liopropominae) に分類され、体長が 5 cm から 25 cm 程度の小型魚類である (Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 2013; Parenti and Randall, 2020; 中村・本村, 2022)。本属魚類は、体が前後方向に長く、体長が体高の 2.8–4.15 倍、背鰭が 8 棘 11–14 軟条、臀鰭が 3 棘 8–11 軟条、体側が弱い櫛鱗に覆われる、側線が完全で、側線有孔鱗数が 44–66、両顎に絨毛状の 1 歯帯をもつ、犬歯状歯を欠く、そして主上顎骨下縁に下方突起があるなどの特徴を有する (Randall and Taylor, 1988; 中村・本村,

2019)。本属魚類の多くはインド・太平洋に分布するが、一部の種は東太平洋や大西洋から知られる (Randall and Taylor, 1988; Parenti and Randall, 2020)。本属は世界で 31 種、日本からは 12 種の記録があり (Pinheiro et al., 2019; Parenti and Randall, 2020; 中村・本村, 2022; 本村, 2025)、高知県では、トゲハナスズキ *Liopropoma japonicum* (Döderlein, 1883)、ツルゲエ *Liopropoma latifasciatum* (Tanaka, 1922)、そしてハナスズキ *Liopropoma maculatum* (Döderlein, 1883) の 3 種が確認されていた (蒲原, 1933a, b, 1936, 1950; 瀬能, 2013)。

高知大学理工学部 (BSKU) 所蔵の魚類標本コレクションから、2003 年 4 月に高知県宿毛市沖の島西方沖で釣獲されたハナスズキ属魚類の 1 標本 (BSKU 68258) が確認され、クロオビスズキ *Liopropoma lemniscatum* Randall and Taylor, 1988 に同定された。本種は沿岸の岩礁に生息し、日本国内では伊豆諸島 (伊豆大島)、相模湾から和歌山県にかけての太平洋沿岸、および南西諸島から記録がある (瀬能, 2013; 池田・中坊, 2015; 古橋・本村, 2022; Motomura, 2023)。したがって、同標本は四国沿岸における本種の初記録となるため、ここに報告する。

### 材料と方法

調査標本の計数・計測方法は Randall and Taylor (1988) に、ハナスズキ属の分類体系および各種の学名は中村・本村 (2022) にそれぞれしたがった。標準体長は体長または SL と表記した。調査標本の背鰭中央部は棘条の観察が困難であるため、軟 X 線写真を用いて計数した。側線有孔鱗数 (lateral-line scales) はアニリンブルーで染色し、双眼実体顕微鏡と数取器を用いて右体側で計数した。計測は両針コンパスとデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数第 2 位を四捨五入した。背鰭中央部の第 6 棘長 (6th dorsal-fin spine length) は、前記した理由により計測項目から除いた。調査標本は高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) に登録され、10% ホルマリン水溶液固定後に 70% アルコール水溶液中に保存された。本報で用いた



Fig. 1. Preserved specimen of *Liopropoma lemniscatum* (BSKU 68258, 132.4 mm SL) from Kochi Prefecture, Shikoku, Japan.

研究機関略号は、Sabaj (2020) のとおりである。

### *Liopropoma lemniscatum* Randall and Taylor, 1988

#### クロオビスズキ

(Fig. 1; Table 1)

**標本** BSKU 68258, 体長 132.4 mm, 雌, 高知県宿毛市沖の島西方沖, 森ノ瀬 (32°46'13"N, 132°29'30"E 周辺, 水深およそ 70–80 m), 釣り, 2003 年 4 月 22 日, 採集・寄贈: 徳田禎伸 (龍勝丸)。

**記載** 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は前後方向に伸長して細長く、やや側扁する。体高は低く、背鰭中央部で最大となり、体長は体高の 3.2 倍。尾柄は太くやや短い。両眼間隔域は凸状。口は端位で口裂は大きい。主上顎骨後端の上部は丸みを帯び、その下縁は下方に突起があり鉤状。両顎、鋤骨、および口蓋骨に歯帯をもつ；上顎は前方に円錐歯、側方に絨毛状歯が、下顎は円錐歯がそれぞれ密集し、犬歯状歯を欠く；両顎の歯帯は、前方で幅広くなる；鋤骨は前方に絨毛状歯、側方に円錐歯が V 字型に、口蓋骨は前方に小さな円錐歯、後方に絨毛状歯が八の字型に、それぞれ密集する。円錐歯はいずれも直線的で不規則に並び、両顎と鋤骨では内側に向かい大きくなる。後鼻孔は楕円形で眼窩の直前に位置する。前鼻孔は標本の状態が悪く確認できない。前鰓蓋骨の後縁は概ね平滑であるが、後縁下部は弱い鋸歯状；下縁はほぼ平滑。主鰓蓋骨棘は 3 本で、上下の棘は皮下に埋没し、中央の棘のみ先端が露出する。頭部と体側の全体、背鰭基部、臀鰭基部、および尾鰭の大部分は被鱗し（ただし、背鰭中央部は全体）、体側鱗は櫛鱗。側線は完全で、鰓蓋上方から背鰭第 5 棘基部直下付近にかけて上昇し、そこから尾柄中央部まで下降する；尾柄中央部から尾鰭基部までは体軸と平行に走る；側線は下尾骨を越え、尾鰭基部まで続く。肛門は臀鰭起部直前に位置する。背鰭は 1 基で、起部は胸鰭基部直上のやや後方に位置し、基底後端は臀鰭基底後端とほぼ等位；第 3 棘が最長で、背鰭縁辺の中央部は凹む；軟条

基部前端は肛門とほぼ等位。胸鰭は長く、基底上端は鰓蓋後端より前方に位置する；第 5 軟条が最長；後端は臀鰭起部とほぼ等位。腹鰭起部は胸鰭基底上端よりやや後方に位置する；たんだ腹鰭後端は肛門に達しない；第 5 軟条と腹部の間に鰭膜がない。臀鰭は第 3 棘が最長で、臀鰭起部は背鰭第 2–3 軟条基部とほぼ等位。尾鰭後縁は浅い二叉形（ただし、上葉の一部は損傷）。鰓耙は棒状で細長く、上枝の上端と下枝の下端は小歯板状；下枝の小歯板状鰓耙の一部は節間が不明瞭で、右体側では 2 つが癒合してみえる。

**色彩** 固定時 (Fig. 1) — 頭部の地色は淡褐色、体側の地色は薄暗い黄褐色。頭部背面と主鰓蓋骨上部は褐色。体側の背側と中央に 2 本の褐色縦帯がある。前者は頭部背面から体側背縁を通り尾柄後端にかけて走り、後方に向かい細くなる；背鰭基底付近が最も濃い。後者は眼の後端から体側中央を通り尾鰭基部にかけて走り、臀鰭起部の直上付近から尾柄中央にかけて幅広くなり、尾柄部では縦帯の下縁が側線に接する；胸鰭基部直上と尾柄部後端付近では淡色で、臀鰭基底の直上付近が最も濃い。不定形の褐色斑点が下鰓蓋骨下縁に 1 個あり、胸鰭下から臀鰭基底中央直上にかけての体側下部では 6 個がほぼ直線上に並ぶ。各鰭の地色は淡褐色の無地で、先端が半透明。

**分布** 本種は西太平洋に分布し、日本、台湾南部、およびインドネシアから記録がある (Randall and Taylor, 1988; Allen and Erdmann, 2012, 2024; Limmon et al., 2017; Koeda et al., 2019)。また、フィリピンのダバオ湾からも標本が得られていた (Gumanao et al., 2022)。日本国内では、伊豆諸島 (伊豆大島)、相模湾、駿河湾、和歌山県、高知県、大隅諸島 (種子島、馬毛島)、トカラ列島 (小臥蛇島)、奄美群島 (奄美大島)、および沖縄県から報告がある (Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 1991, 2013; Kon et al., 1999; Senou et al., 2006; Akhilesh et al., 2012; 池田・中坊, 2015; Nakae et al., 2018; 桜井, 2019; Koeda et al., 2019; 古橋・本村, 2022; Motomura, 2023; 本研究)。

**備考** 記載標本は、背鰭が 1 基、眼の後方から尾鰭にかけて幅広い褐色縦帯があり、尾柄上で側線に接する、背

鱗軟条数が 12, 臀鱗軟条数が 8, 胸鱗軟条数が 15, 側線有孔鱗数が 48, および鰓耙数が 6+14=20 などの特徴が, Randall and Taylor (1988), 瀬能 (2013), および Koeda et al. (2019) の示したクロオビスズキ *L. lemniscatum* の標徴と一致した. 加えて, 瀬能 (1991) が掲載した水中写真の個体と比較して, 前記した特徴以外にも, 体側背縁に尾鰭付近まで走る褐色縦帯がある, 体側下部に少数の褐色斑点があるといった色彩的特徴が概ね一致したため, 本種に同定された. 本種は 1975 年に沖縄県那覇市の魚市場で購入された 3 個体 (ホコタイプ: BPBM 19185, 143.0 mm SL; パラタイプ: BPBM 19929, 137.5 mm SL; USNM 213787, 127.0 mm SL) に基づき, Randall and Taylor (1988) によって新種記載された. その後, 瀬能 (1991) は 1991 年 8 月

に伊豆大島秋ノ浜の水深 55 m で撮影された本種の水中共生を掲載し, 標準和名クロオビスズキを提唱した. 以降, 分布の項で示したとおり, 日本国内では散発的な記録があるが, 本報が本種の高知県および四国沿岸からの初記録となる.

Allen and Erdmann (2012: 307, 2024: 328) は, パラオ産のハナスズキ属の標本を本種の成魚として掲載した. しかし, 当該標本は体側の褐色縦帯が尾柄上で側線から離れており, これはツルグエの特徴に該当する (Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 1991, 2013; Koeda et al., 2019). また, 本種とツルグエの生時や生鮮時における色彩的特徴を比較すると, 本種の縦帯は直線的で体側中央にあり, 通常, 背鰭軟条部は前縁 (個体によっては基底部も含む) が黄色で,

Table 1. Counts and morphometric measurements of *Liopropoma lemniscatum*.

	This study	Randall and Taylor (1988)		Koeda et al. (2019)
	Kochi Prefecture	Okinawa Prefecture		Taiwan
	Non-type <i>n</i> = 1	Holotype <i>n</i> = 1	Paratypes <i>n</i> = 2	Non-types <i>n</i> = 10
Standard length (SL, mm)	132.4	143.0	127.0–137.5	115.2–169.3
Counts				
Dorsal-fin rays	VIII, 12	VIII, 12	VIII, 12	VIII, 12
Anal-fin rays	III, 8	III, 8	III, 8	III, 8
Pectoral-fin rays	15	15	15	15–16
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
Lateral-line scales	48	46	47–48	46–48
Gill rakers (upper + lower)	6 + 14	6 + 13	5–7 + 13–14	6 + 13
Measurements (% SL)				
Body depth	31.3	30.0	26.9–27.7	31.2–34.4
Body width	15.6	15.6	14.2–16.0	14.3–18.8
Head length	41.0	40.2	39.2–40.5	37.5–40.8
Snout length	11.8	11.3	10.8–10.9	9.6–11.7
Orbit diameter	7.6	7.7	7.8–8.2	7.3–8.8
Bony interorbital width	7.5	6.9	6.9–7.0	6.8–7.7
Upper-jaw length	16.7	18.4	17.6–18.5	17.3–18.2
Caudal peduncle depth	17.8	16.9	15.0–16.4	16.1–19.4
Caudal peduncle length	19.6	17.5	16.7–17.9	16.4–20.6
Pre-dorsal-fin length	44.3	45.9	44.2–44.7	42.6–45.5
Pre-anal-fin length	72.9	70.9	71.3–72.3	67.4–71.2
Pre-pelvic-fin length	48.2	38.9	38.6–38.9	37.5–42.5
Length of dorsal-fin base	36.9	38.9	35.7–36.1	36.1–39.4
1st dorsal-fin spine length	Damaged	4.2	4.5–4.8	3.2–5.5
2nd dorsal-fin spine length	12.0	10.6	10.9–11.5	10.2–12.8
3rd dorsal-fin spine length	12.4	11.6	12.2–12.3	11.3–13.5
6th dorsal-fin spine length	—*	4.7	4.6–5.2	4.6–6.3
8th dorsal-fin spine length	Damaged	6.1	6.7–7.6	5.5–8.0
Length of longest dorsal-fin ray	18.0	20.3	20.7	18.9–21.0
Anal-fin base length	13.9	13.3	12.4–13.2	12.7–14.9
1st anal-fin spine length	4.5	4.9	4.8–4.9	3.4–5.7
2nd anal-fin spine length	9.4	10.7	10.2	8.4–10.1
3rd anal-fin spine length	10.9	10.8	10.5–10.9	10.4–12.1
Length of longest anal-fin ray	18.8	20.1	19.5–19.7	19.3–21.4
Caudal-fin length	25.5	26.8	27.1–27.2	22.5–28.9
Caudal concavity	Damaged	9.0	8.8–9.6	8.5–9.9
Pectoral-fin length	28.3	28.7	28.0–28.7	27.9–31.1
Pelvic-fin spine length	10.6	10.5	10.5	9.9–12.7
Pelvic-fin length	19.9	21.1	20.2–20.7	20.2–24.5

\*Not measured due to difficulty in observation.

尾鰭の後方（両葉の縁辺を除く）は部分的に黄色の領域をもつ、もしくは黄色を含まない（例えば、瀬能, 1991; Akhilesh et al., 2012: fig. 4; 池田・中坊, 2015: pl. 125-5; 桜井, 2019: 93; Koeda et al., 2019: fig. 4A, C; 古橋・本村, 2022: fig. 1G). ただし, Koeda et al. (2019: fig. 4B) の個体は背鰭軟条部の大部分が黄色である。一方, ツルグエの縦帯は緩やかに弧を描きながら背側に寄り, 背鰭軟条部および尾鰭は通常その大部分が黄色である点为本種と異なる(例えば, 片山, 1984: pl. 119D; 山川, 1985: 470; Randall and Taylor, 1988: pl. IV-C; 池田・中坊, 2015: pl. 125-4). ただし, 山川(1985: 470)の写真個体の尾鰭は半透明の領域が大きい。そのため, Allen and Erdmann (2012, 2024) のパラオ産標本はツルグエの特徴に一致する。さらに, パラオ諸島にはツルグエが分布すること(瀬能, 2013), Allen and Erdmann (2012, 2024) は当該標本を除いてパラオ産クロオビスズキの標本や写真などを掲載していないことから, 本報では本種のパラオにおける記録を不確実とし, 分布の項に含めなかった。

また, Gumanao et al. (2022: fig. 1F) がツルグエ *L. latifasciatum* としたフィリピン産の標本写真は, 体側中央に直線的な1本の褐色縦帯があり, 尾柄上で側線に接する, 背鰭軟条部の前縁が黄色で, 尾鰭両葉の縁辺を除く後方に黄色を含まないなど, クロオビスズキの色彩的特徴を示すことから, 本種の誤同定と判断した。したがって, フィリピンを本種の分布域に含めた。なお, 本種とツルグエは前記の色彩的特徴の他に, 背鰭軟条数が12 (vs. 通常13), 臀鰭軟条数が8 (vs. 9) などの違いにより識別される(Randall and Taylor, 1988; 瀬能, 2013; Koeda et al., 2019)。

クロオビスズキの中には, 生鮮時に体側中央を走る縦帯が黄色みを帯び, 不明瞭になる個体が存在する(瀬能, 2013; 桜井, 2019: 93; Koeda et al., 2019; 古橋・本村, 2022: fig. 1G)。このような色彩の特徴をもつ個体は, 同様に体側に黄色縦帯をもつバラスズキ *Liopropoma aragai* Randall and Taylor, 1988 によく似るが, クロオビスズキは縦帯が尾鰭まで伸びる (vs. 後者では体側後部で黄色の縦帯が広がる), 腹部に黄色縦帯がある (vs. ない), 尾鰭両葉の先端を結ぶ線と湾入部の最深部(最短鰭条)の水平距離(caudal concavity)が体長の8.5–9.9% (vs. 10.1–11.0%) などにより識別される(Koeda et al., 2019)。また, Koeda et al. (2019: figs. 1–4) が図示したように, クロオビスズキとバラスズキの生鮮個体はいずれも黄色みを帯びた縦帯をもつが, クロオビスズキの固定後の標本には褐色の縦帯として残存する一方, バラスズキの固定後に退色した標本では黒色素胞が残らない。そのため, 固定後の縦帯部における黒色素胞の有無も, 両種の識別形質とされる(瀬能, 2013; Koeda et al., 2019; Fig. 1)。

体長132.4 mmの記載標本は雌で, 未成熟卵をもっていた。ハタ科魚類の多くは雌性先熟の性転換を行うが, Smith (1971) が観察した大西洋産の本属2種(各5個体)では, 性転換の形跡が生殖腺にないこと, 精巣内に卵巣腔の痕跡があることから, 雌雄同体由来する二次的な雌雄異体と推測された(中園・桑村, 1987)。しかし, 本種の生殖様式については不明である。

本属魚類は小型で, おもに深場の岩礁底, サンゴ礁の洞穴や岩の裂け目に生息するため, 標本を採集する機会は稀で, 偶発的な釣獲やスキューバダイビングなどの方法に限られる(Randall and Taylor, 1988; Pinheiro et al., 2019; Parenti and Randall, 2020; 中村ほか, 2023)。また, 本種は水深28–340 mの沿岸岩礁域で単独行動するとされる(Allen and Erdmann, 2012, 2024; 瀬能, 2013; 池田・中坊, 2015)。加えて, 本種の標本産地の多くは, 南日本の太平洋岸, 東シナ海の沿岸, および台湾南部周辺の海域に集中しており(瀬能, 2013; Koeda et al., 2019), 台湾より南方の海域における本種の生息状況については不明な点が多い。したがって, 本種の形態変異や生態, 分布域などを解明するためには, これらの知見を蓄積していくことが望まれる。

記載標本が釣獲された「森ノ瀬」は, 高知県宿毛市沖の島西岸沖, 鶴来島と姫島の間あたりの海域で, 水深およそ70–80 mである。一方, 足摺岬南西沖にも「森ノ瀬」と呼ばれる海域があり(最浅部は32°33'30"N, 132°46'17"E周辺), 漁業や遊漁で利用されている。

## 謝 辞

本報の執筆にあたり, 高知大学理工学部の奈良正和教授と津野義大氏, 饗場空璃氏をはじめとする海洋生物学研究室の方々には, 標本の軟X線写真撮影や解剖・観察等の研究活動にご協力いただいた。徳田旅館の故徳田禎伸氏と徳田かつみ氏(大月町柏島)には標本の寄贈と釣獲域の情報を, 上杉一臣氏(高知市)には足摺岬沖の釣りの情報をそれぞれいただいた。Ichthy 編集委員の中村潤平氏, 匿名の査読者, および高知県林業振興・環境部の岡村恭平氏には, 原稿に対し有益なご助言をいただいた。以上の方々には厚く御礼申し上げる。

## 引用文献

- Akhilesh, K. V., K. K. Bineesh and W. T. White. 2012. *Liopropoma randalli*, a new serranid (Teleostei: Perciformes) fish from the Indian Ocean. *Zootaxa*, 3439: 43–50.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiv + 1294 pp.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2024. Reef fishes of the East Indies. Second edition. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xvi + 1468 pp.
- 古橋龍星・本村浩之. 2022. トカラ列島の無人島, 臥蛇島と小臥蛇島における魚類57種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 7–18. [URL](#)

- Gumanao, G. S., K. J. S. Gumanao and A. R. Bos. 2022. Eight new records of marine fishes (Teleostei: Perciformes and Tetraodontiformes) from the Philippines. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 102: 133–137. [URL](#)
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 蒲原稔治. 1933a. 高知市附近の魚類追記 (IV). *動物学雑誌*, 45: 239–244. [URL](#)
- 蒲原稔治. 1933b. 高知市附近の魚類追記 (V). *動物学雑誌*, 45: 471–476. [URL](#)
- 蒲原稔治. 1936. 高知市附近の魚類追記 (VIII). *動物学雑誌*, 48: 17–22. [URL](#)
- 蒲原稔治. 1950. 土佐及び紀州の魚類. 高知縣文教協会, 高知. 368 pp.
- 片山正夫. 1984. ツルグエ, pp. 129–130, pl. 119D. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Koeda, K., H. Senou, C.-W. Chang and H.-C. Ho. 2019. Redescription of *Liopropoma aragai* (Teleostei: Serranidae), with two new confirmed records of species of *Liopropoma* from Taiwan. *Zootaxa*, 4702: 60–72. [URL](#)
- Kon, T., T. Yoshino and Y. Sakurai. 1999. *Liopropoma dorsoluteum* sp. nov., a new serranid fish from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 46: 67–71.
- Limmon, G. V., F. Rijoly, A. S. Khouw, G. D. Manuputty and J. A. Pattikawa. 2017. The diversity of grouper (Epinephelinae) in Ambon Island, Maluku, Indonesia. *Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands Occasional Papers*, 58: 23–29. [URL](#)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 30. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-Oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. [URL](#)
- 中村潤平・是枝伶旺・前川隆則・本村浩之. 2023. 甌島列島と奄美大島から得られた鹿児島県初記録のハタ科魚類ハナスズキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 38: 4–7. [URL](#)
- 中村潤平・本村浩之. 2019. 鹿児島湾から得られたハタ科魚類の稀種フタイロハナスズキ *Liopropoma dorsoluteum* の記録. 鹿児島大学水産学部紀要, 68: 19–23. [URL](#)
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43. [URL](#)
- 中園明信・桑村哲生 (編). 1987. 魚類の性転換. 東海大学出版会, 東京. 284 pp.
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2020. An annotated checklist of the fishes of the family Serranidae of the world with description of two new related families of fishes. *FishTaxa*, 15: 1–170. [URL](#)
- Pinheiro, H. T., B. Shepherd, B. D. Greene and L. A. Rocha. 2019. *Liopropoma incandescens* sp. nov. (Epinephelidae, Liopropominae), a new species of basslet from mesophotic coral ecosystems of Pohnpei, Micronesia. *ZooKeys*, 863: 97–106. [URL](#)
- Randall, J. E. and L. Taylor. 1988. Review of the Indo-Pacific fishes of the serranid genus *Liopropoma*, with descriptions of seven new species. *Indo-Pacific Fishes*, 16: 1–47, pls. 1–4.
- Sabaj, M. H. 2020. Codes for natural history collections in ichthyology and herpetology. *Copeia*, 108: 593–669. [URL](#)
- 桜井 雄. 2019. ハタ科 Serranidae (ハタ亜科 Epinephelinae), pp. 84–95. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 瀬能 宏. 1991. クロオビスズキ (新称). *伊豆海洋公園通信*, 2 (12): 1.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- Smith, C. L. 1971. Secondary gonochorism in the serranid genus *Liopropoma*. *Copeia*, 1971: 316–319.
- 山川 武. 1985. ツルグエ *Liopropoma latifasciatum* (Tanaka), pp. 470–471. 岡村 収 (編) 沖縄舟状海盆及び周辺海域の魚類 II 大陸斜面未利用資源精密調査. 社団法人日本水産資源保護協会, 東京.